



長野県大町市大町3887番地  
大町市土地改良区  
水土里ネットおおまち地域用水対策協議会  
TEL 0261 (22) 5542  
FAX 0261 (23) 0766

# 定例総会が開催されました

本年三月二十五日、大町市役所会議室において本協議会総会並びに子ども絵画展の表彰式が開催されました。

当日は議事に先立ち、昨年本協議会の協力により行われた、大町西小学校五年生の米づくり体験を通し、子どもたちが感じた思いの感想を絵で表現してくれた作品の中から、厳正に審査し、会長賞、理事長賞、入選の9点について表彰が行われました。

表彰式には、ご家族も同席の中、一人一人に牛越会長から表彰状と副賞の記念品が手渡され、表彰式終了後には、会長から受賞された皆さんに「米づくりを通して、大切な資産である水の大切さを理解し、すばらしい作品を描いて頂きました。これからも地域の水を大切に守って行ってください。」と労いの言葉がかけられました。

引き続き、本協議会の定例総会が開催され、平成二十年度事業報告並びに収入支出決算、平成二十一年度事業計画並びに収支予算が審議され可決されました。



子ども絵画展表彰式

なお、本年も引き続き実施が計画されている、ふれあいイベント「土・人・水」は、今回で節目の十回目を迎えることから、更に地域全域の大勢の皆さんに関心を持って頂けるようなイベントとなるよう、常任委員、幹事合同の会議の中で知恵を出し合って検討して行くことが求められました。

## 平成二十年度 活動状況

### ◆小学校総合学習に協力

大町西小学校から米作り体験への協力要請があり、五年生二クラスに種まき、代掻き、田植え、稲刈り、脱穀など農業に関わる体験活動を指導しました。

(状況)

慣れない手つきながら、泥の感触、水の冷たさ、稲穂の重みを実感するなど、身体全体を使った体験を通し、用水の大切さを伝えました。

### ◆全国子ども絵画展に応募

昨年、全国水土里ネットで募集した、子ども絵画展における受賞の状況は次の通りです。

・全国絵画展応募総数

一二四二一点・受賞者

【入賞】

大町西小六年 北沢信広君

【地域用水優秀賞】

大町西小六年 柴田はつきさん

なお、地水協おおまちで募集した絵画展のコンテスト結果は、第4面に掲載しました。

## 土・人・水

### 第9回ふれあいイベント

昨年八月二十三日(土)、越荒沢堰親水広場に於いて、第9回(水土里ネットおおまち地水協主催では第1回)ふれあいイベント「土・人・水」は、園児や小学生など約七十人が参加して行われました。

当日は朝からあいにくの小雨模様でしたが、開会式が終わると各人は予め割り当てられた区域の親水広場周辺の雑草取りで汗を流し、その後は親水池でのイワナやマスの魚つかみで楽しみました。中には、バケツ一杯になるまで捕った子供もいて、その日の晩ご飯のおかずが助かったと母親に喜ばれている姿もありました。



「お母さん、いっぱい捕ったよ！」

# 田んぼマラソンスタート

恒例となった大町西小五年生による米づくり体験が、今年もスタートしました。

まず四月十七日に、「ライスファーム野口」より提供していただいた「おらがもち」を、各班一箱ずつ手作業でまきました。ムラがないよう一粒ずつ均平に蒔く作業は思った以上に大変な様子でしたが、仲間と協力して十四箱蒔きました。

今年の水の管理も良く行き届き、苗もすくすくと成長し、五月十五日には子ども達に好評の素足による植え代が行われました。先生の「田んぼに入っ



泥んこになって代掻き

ていぞー」のかけ声と同時に田んぼに飛び込み、みんな元気いっぱい駆け回り、ほとんどが初体験となる泥遊び？に感激していました。帰ってから洗濯にお家の方も大変だったことと思われました。

続いて、五月十八日には手植え作業による田植えが好天の空の下行われ、慣れない田んぼに足を取られながらも約一時間ほどで五アールの田植えを終わりました。自分達が植えた苗がきれいな列に並んでいるのを見て喜ぶ子や、家で植え直しのお手伝いをしている子が、黙々と作業しているのが印象的でした。

今後は案山子のスズメ脅かしを立てるなどして、秋の収穫を迎える予定です。

## 水路にゴミを流さないで！

用水路には農業用水としてばかりでなく、地域にとって欠かすことの出来ない水が流れています。

時には長靴の汚れを落とし、手を洗うといった生活用水に、また、火事が起これば消火に、大雪が降れば流雪用水に利用され、さらさらとした流れに心を癒される環境用水にもなっています。

す。

しかし、こんな大切な用水でありながら、現実には北アルプスの清き水を取水してからわずか数キロ流れ下る間に、ペットボトルが浮き、ビニール袋や草がたくさん絡みつくといった、とても手洗いはできない環境になっています。

人が水路に投げ入れたゴミばかりではないのかもしれませんが、北アルプスの麓に位置する当地域では、一人一人が、水路は綺麗でいて欲しいという気持ちを持って、この清らかな水が下流へ下流へと汚れることなく流れていくよう接して欲しいと思います。それがこの地域に住む人間が果たすべき義務ではないかと思えます。



下流では、毎日ゴミ上げが行われています

## 越荒沢堰親水広場の利用

イベント会場となっている越荒沢堰親水広場は、自治会や一般の皆さんに広く利用していただくとうと、利用の届出の必要もなく無料で開放しているため、地域で企画する催しや、家族の憩いの場にも利用されています。

しかし、近頃は広場内での焚き火や、バーベキューをした跡が多く見受けられるようになりました。広場を利用する際に火気については特段禁止をしてはいませんが、後始末が充分に行われず、火災の怖れや景観上好ましくないため、今後は禁止したいと考えております。

なお、毎年のイベントで子供たちが汗水流して環境整備を行っている施設ですので、利用される皆さんは「来た時より美しく」の気持ちを忘れずに楽しんでくださるようお願いいたします。



散らかったままの焚き火跡

# 農具川の昔話 ―機織淵(はたおりぶち)の話―

農具川は、木崎湖を源流として平の木崎、借馬地籍を経て大町市街地の東側を流下し、社青島地籍で高瀬川に合流している。大町市内で稲作が最も早く始まったのは、農具川流域とみられ、古代の安曇郡村上郷の中心的集落も、この周辺に発展したものと考えられている。これは、木崎湖が天然の「温水ため池」としての機能を発揮したことによるもので、水温の高い灌漑用水は稲作に適し、やがて現在の大町市街地の開発へと結びついた。

現在、農具川の主な流出口は、木崎湖南端のゆーぶる木崎湖上流にある水門で、下流部分は深い「掘割状」になっているが、この地点から東側へ100メートルほど進んだ「くびつと」地点からゆったりと流出している流れが、本来の農具川本流である。中世以後は、この地点に聖牛を組み土囊を伏せて木崎湖をせき止め、水位を上げて温水を貯留していた。この結果、現在の森集落西側のくぼ地も浸水して「水掘」となり、森集落から仁科神社、安陪社までに至る半島状の「要害森城」が出現したのである。正に「一石二鳥」であり、こうした高い水利活用を生み出した仁科氏の技術力がうかがわれる。

ゆーぶる東側から続く現在の農具川は、昭和十九年の国策による「河水統制事業」により昭和電工広津発電所の発電用水量のために再発掘されたもので、このとき社館の内付近まで農具川の河床が掘り下げられた。以後も県営ほ場整備や河川改修事業を経て現在の農具川の流況となり、近年は民間ボランティアによるアヤマとサツキの植栽により大町を代表する景観のひとつに数えられている。

次に紹介するのは、こうした現在の姿からは想像もできない古い農具川にまつわる昔話である。

木崎湖の水が農具川となって流れ出して四五丁(4500メートル)下流に機織淵と呼ばれているところがある。今は浅い川底になっているが、明治初年ころまでは渦の巻く深い淵であったという。今から七〇〇年前の天福元年、仁科城主であった安倍貞高が不意に木曾義重に攻められて落城の悲運に遭った折、貞高の妻は逃げ道を失い機を背負ってこの淵に入水したという哀話が伝えられている。今でも天気の変わり目ころ、殊に梅雨のころには淵のあたりで機を織る音が聞こえるという。そして付近に生えている葦を箴

芦(箴は機織の付属具)と言って、それを刈れば必ず雨が降ると伝えられている。「北安曇郷土誌稿」より



ゆったりと流れる旧農具川

## ふれあいイベント 「土・人・水」

恒例になった、ふれあいイベントは、今年で十回目となりますが、昨年同様、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、水路への魚の放流などを行います。更に、今年の子供たちにかぶと虫の配布(五十匹ほど)を計画しています。

また、イベントに併せ、用水路が流れ下って行く間の状況変化について、パネル展示も行いますので、地域子供会の行事や、家族ふれあいの場の一つ

としていかがでしょうか。大勢の参加をお待ちしております。  
なお、当日は昼食(おにぎり)とお茶を用意します。

◆主催 水土里ネットおおまち 地域用水対策協議会

◆日時 八月二十二日(土) 午前九時開会

◆会場 平猫鼻 越荒沢堰親水広場

◆持ち物 作業のできる服装 (雨具、軍手等)

◆申込 タモ網、魚、昆虫の入れ物 八月十四日迄に左記まで

水土里ネットおおまち

(大町市土地改良区)

TEL 22-5542

E-mail

midori-net.omachi@ceres.ocn.ne.jp

http://www.midorinet-omachi.jp/



# 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2008

大町西小学校5年生が、総合学習で取り組んだ米作りを通して体験した農作業の様子を、それぞれが力強いタッチで表現してくれました。米作り体験を通じて感じた用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守っていくという意識が生まれたことを期待しています。

寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)

## 会長賞

「りっぱないねを  
かるのはたいへん」



白井ありす (大町西小 5年1組)

## 理事長賞

「たいへんだった稲刈り」



吉田恵美子 (大町西小 5年1組)

「初めて持つかまは  
どきどきするなあ」



山口 愛 (大町西小 5年2組)

## 入選 (大町西小 5年1組)

「一生けんめい運んだ」



栗林明日香

「たくさんしぼったひもしぼり」



和田みなみ

「一生けん命稲をかっている」



中畑風哉

## 入選 (大町西小 5年2組)

「初めての稲しぼり」



伊藤愛恵

「秋の行事」



松原麻咲

「つかれた稲刈り」



山田雅士